

<p>試験Ⅱ聴解問題4のパターン</p>	<p>デンス：ル形/タ形 「食べる」「食べた」の使い分け。「昨日カレーを食べます」 フィラー：言い淀み「あのう」「えー」「まあ」の多用</p>		
<p>1 学習者が一人で話す 2 学習者がレッスンを受ける 3 学習者が日本人と会話する</p> <p>聞かれ方 ①学習者の発話の問題点 ②教師の対応 教師は何をしたか ③日本人の反応 どう対応したのか</p>	<p>複文： 連体修飾「昨日みた猫は可愛かった」 名詞句「猫カフェに行くことは楽しい事です」 副詞句「猫カフェが好きなので、猫カフェに行きます」 引用「彼は猫が好きだといった。」</p> <p>接続詞：「だから」「それで」</p> <p>アクセントの平板化：起伏式アクセントが平板式になること アクセントの下がり目を消す＝「良くない↑」が「良くない↑」 彼氏が：「かれしが」→「かれしが」下がり目が無くなる 図書館：「としよかん」→「としよかん」バイク：「ばいく」→「ばいく」モデル「もでる」→「もでる」</p> <p>昇降調イントネーション：尻上がりイントネーション。「だって～～」「うちの彼氏が～～」 ポーズ：変な所に間がある。あるいは文と文の間に間がない。</p>		
<p>教師の対応</p>			
<p>Q 教師の問題点 否定的な反応 特定の集団の代表者として 既知の情報を発話 特定の学習者に集中</p>	<p>Q 教師のとった対応 暗示的フィードバックをした 会話の流れを止めて訂正した 正しい形式を与えた 言葉以外の説明を用いた</p>	<p>Q 必要な指導項目 促音 撥音 長音 半母音</p>	<p>Q 指導が必要な項目 のだ文 応答詞 複文 接続詞</p>
<p>Q 教師がしていないこと 正しい発音の繰り返し 正しい表記に書き直し 表記上の間違いを指摘 発音上の間違いを指摘</p>	<p>Q 教師のとった対応 正しい表現を与えた 正しい表現を繰り返させた 間違えた部分を聞き返した 間違えた部分を繰り返した。</p>	<p>Q 練習方法 TPR VT法 サジェストペディア シャドーイング</p>	<p>Q 学習者の誤り訂正 音素の誤りは修正できたがリズムは修正できなかった 拍の誤りは修正できたが、撥音は修正できなかった 教師のフィードバックの通り、訂正できた 教師の訂正によらず、自己訂正ができた</p>
<p>Q 教師のとった対応 誤りを明示的に指摘 途中まで文を言って訂正を促す 同じ誤りをするか確認する 正しい表現を強調して気づかせようとした</p>	<p>Q 教師がさせている練習 変形練習 代入練習 拡張練習 結合練習</p>	<p>Q 変わった点 リズム イントネーション プロミネンス アクセント</p>	<p>Q 指導上の問題点 キューの語尾が上がりイントネーションになっている 文を前からでなく、後ろから作らせている 語彙の間違いを訂正していない ドリルの合間に褒め言葉を入れている</p>

学習者の発話の問題点			
Q 発話の特徴 テンス フィラー 聞き返し 正しい表現の産出を試みる	Q 話し方の特徴 スピーチスタイル 複文 言いさし 美化語	Q 発話の特徴 相づちが多い スピーチスタイルが変化 相手からターンを奪う 判断停止が見られる	Q 発話の特徴 相手の発話を途中から続ける 序数詞を使っている スピーチレベルが安定している 敬語表現が多用されている
Q 音声的な問題点 アクセントの平板化 昇降調イントネーション 語頭の無声音が有声化 ポーズ	Q 発話の問題点 テンス スピーチレベル 誤用論 統語論	Q 発話の特徴 相手の問いに応答していない 助詞の省略が多い 文脈からわかる情報を省略している 外来語の読みに母語の影響がない。	Q 話し方 途中からスピーチレベルが変化 難しい言葉を易しく言い換える フォーリナートークを使っている 助詞の省略が多い
Q 音声的な特徴 上昇調イントネーション 頭高アクセント フィラー ポーズ	Q 音声的な特徴 昇降調イントネーション ポーズ プロミネンス 拗音の直音化	Q 話し方の特徴 「のです」を多用する 接続詞を多用する フィラーを多用する オノマトペを多用する	Q 話し方の特徴 ティーチャートークを多用 フォーリナートークの特徴がみられる 学習者の発話内容を繰り返す 学習者の誤りを訂正しながら話す
Q 発話の特徴 相づちで話を促している 動詞の縮約形が多い 文中に疑問イントネーションを用いている 疑問イントネーションでアクセントが平板化している		Q 発話の特徴 相手が理解できなかった語を言い換える 相手に伝わらなかった部分を理解していない 相手に意味が伝わらない場合、同じ文を繰り返す 相手の発話を待たずに、積極的にターンを取る	

その他			
Q 誤りに含まれないもの	Q 学習者の誤りの原因	Q 文法的な問題点	Q 文法面での特徴
ナ形容詞にイ形容詞の活用を用いる	動詞をナ形容詞と混同している	前方照応の文脈指示	不適切な接続表現
ナ形容詞を名詞のように用いる	ナ形容詞を動詞と混同している	後方照応の文脈指示	不適切な語彙は使用していない
助動詞の活用に誤りがある	動詞をイ形容詞と混同している	「こ系」の現場指示	縮約形を使っている
助詞の選択に誤りがある	イ形容詞を動詞と混同している	「そ系」の現場指示	終助詞を多用している
Q 日本人の工夫	Q 誤解した理由	Q 繰り返しのあやまり	
同じ言葉の繰り返し	特殊拍の挿入	逆接の接続詞と順接の接続詞の混同	
言い換え	アクセント	確認の終助詞と注意喚起の終助詞の混同	
理解確認	表記上の誤りが音声に	特定の助詞とモダリティ形式の固定的な組み合わせ	
発話を先取り	音声上の誤りが表記に	特定の助詞と人物を表す名詞の固定的な組み合わせ	
Q 日本人が困っている原因	Q 断り方	Q 待遇表現	
自分の発話で相手が気分を害した	理由を示した明示的	目上の人への労う	
発話の意図が伝わらない	感情を表した高圧的	恩恵の押し付け（与益表現）	
相手の発話が聞き取れない	言い淀み	受益表現	
相手の発話に文法的誤り	謙遜表現	尊敬語と謙譲語の混同	